

ほっかいどう N I E 通信

Newspaper in Education



発行 北海道 NIE 推進協議会

〒060-8711 札幌市中央区大通西3丁目6 北海道新聞社内 ☎011-210-5802 FAX011-210-5826

北海道新聞ホームページ「NIE」(<https://nie.hokkaido-np.co.jp/>)でバックナンバーから閲覧できます

札幌大会 高校生も主役

8月16、17両日に開かれる第26回NIE全国大会札幌大会(日本新聞協会主催、北海道NIE推進協議会主管)は、高校生も重要な役割を担う。開閉会式の司会をはじめ、初日の様子を取材し記念新聞を発行。パネルディスカッションにも登壇する。大会公式ロゴのデザインにも10代の感性が生かされた。

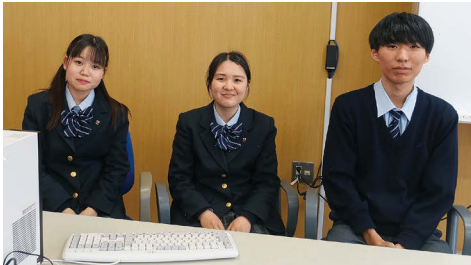
全国の人に記念紙

新聞局員が発行

札幌啓成高、札幌旭丘高
記念新聞は札幌啓成高、札幌旭丘高の両新聞局員が担当する。「貴重な経験なので、いろいろと新聞づくりを学びたい」と意欲的だ。両校の活動は活発で、道高文連の全道高校新聞コンクールの入賞も多い。啓成高からは後藤夏樹さん、村上戒慧(かいえ)さん、富山菜結希さん、高田有彩さんの4人、旭丘高からは吉田由樹伯(ゆきのり)さん、



左から④啓成高校の富山さん、後藤さん、高田さん、村上さん⑤旭丘高の菅原さん、権瓶さん、吉田さん



権瓶春菜さん、菅原ひまりさんの3人が参加する予定。7人は1年生。

旭丘高の菅原さんは、全国大会に参加することで「新聞制作の技術を上させたい」と話す。作業は両校共同で行う。啓成高の富山さんは「他の学校の新聞づくりを知りたい機会」と本番を楽しみにする。

パネル討論参加

為国さん、浜田さん

札幌藻岩山図書館
パネルディスカッションには、札幌藻岩山の図書館員とともに1年生の為国結菜さんと浜田亮太さんが、社会人のパネリストに交じって参加する。

開閉会式で司会

札幌北高・古崎さん

札日大高・山田さん

司会は札幌北高2年、古崎純さんと札幌日大高2年、山田涼平さんが務める。ともに放送局のアナウンサーで「分かりやすく伝える」という原点を胸に本番に臨む。

二人は昨年、道高文連放送コンテストのアナウンス



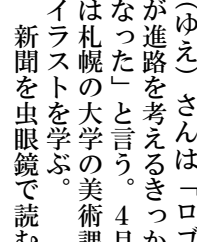
山田涼平さん



古崎純さん



今井優笑さん



河井優笑さん

ロゴ 感性キラリ

江別高・今井さん

大会公式ロゴをデザインした江別高3年の今井優笑(ゆえ)さんは「ロゴ考案が進路を考えるきっかけとなった」と言う。4月から札幌の大学の美術課程でイラストを学ぶ。新聞を虫眼鏡で読むデザ

部門に参加。古崎さんは1位、山田さんは7位(男子1位)に輝いた。「1位に驚いた」という古崎さんは現在アナウンス部長。山田さんは、コンクール上位常連の札日大高のアナウンスチーフだ。



浜田亮太さん



為国結菜さん

新聞の投稿欄をよく読むという為国さんは、次期局長に就任を予定する。「な

かなかできない経験。不安もあるけれど楽しみ」と話す。浜田さんは「『全国大会』という言葉が新鮮だった」と、参加打診を受け自ら手を挙げた。

討論は大会スローガン「新しい学びを創るNIE」家庭、教室、地域をむすぶ」をテーマに行われる。二人は今後、NIE札幌大会について詳しく調べたり、新聞を読む時間を増やし準備して臨みたい」と話す。

NIE札幌大会を見学するかどうかは、まだ決めていない。内気な性格のため、「自分のロゴが全国の人に知られるのは、正直まだまだ恥ずかしい」からだ。



十勝地区セミナー 森山卓郎さん講演

初のオンライン開催

北海道NIE推進協議会(菊池安吉会長)の第19回NIE十勝地区セミナーが2月11日、新型コロナウイルス感染予防のため、地区セミナー初のオンラインで開かれた。

札幌、十勝地区から約20人が参加。日本語学者で早稲田大学教授の森山卓郎さんが「言葉」をキーワードに「新しい新聞教育」につ

いて講演した。

森山さんは「思考力、判断力、表現力の元になる基礎的な知識・技能を得るには、言葉の意味を考え、使いつなぐことが大事」と話した。また、自分の考えや学習内容をコンパクトにまとめる「はがき新聞」を例に、「読むNIE」に加え、「書くNIE」の有用性も強調した。

セミナーは第31回北海道十勝新聞教育研究大会も兼ね、北海道十勝新聞教育研究会(早川一之会長)と共催した。

本年度セミナー2回

北海道NIE推進協議会主催の2020年度地区セミナーは、新型コロナウイルス感染拡大のため、十勝地区セミナーのほか、授業を公開したオホーツク地区セミナー(北見市)の計2回で終了した。旭川で予定していた上川地区セミナーは中止した。

近年は全道的な北海道セミナーと合わせ10回程度開催していた。

「いっしょに読もう」道内、奨励賞3人6校

日本新聞協会は、第11回「いっしょに読もう!新聞コンクール」の受賞者と受賞校を発表した。道内からは奨励賞に外尾幸路(ほかおゆきじ)さん(夕張市立ゆうばり小4年)、劉伊晴(りゅういちゃん)さん(江別・立命館慶祥高1年)、佐藤颯人(はやと)さん(富良野高1年)の3人、学校奨励賞には登別市立富岸小、函館市立北中、根室管内別海

NIE実践奮闘記

札幌市立あいの里東中学教諭 佐藤 航

本校は2018年度から日本新聞協会のNIE実践指定校となり、休み時間に新聞を読んでいる生徒も見られます。私自身、社会科学論になって4年目で、1年目から社会科学や道徳科の授業などさまざまな場面で新聞を使った実践を継続しているが、まだまだ経験不足です。今回は北海道NIE研究会の20年度全道大会で予定していた道徳科の実践をオンラインでビデオ公開し、それを基に行った授業研修会の内容を中心に述べていきたい。

実践は内容項目を「遵法精神・公德心」とし、実名



在り方について考える」とある。

授業前に情報と報道についての認識を深めるアンケートを生徒に実施した結果、事実を正しく伝えているメ

報道と匿名報道を主題に行った。内容項目の指導目標には「法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい

ディアは新聞、テレビの順に高く、会員制交流サイト(SNS)は信用できないという意見が大半だった。一方で、情報をやりとりする手段として比較的信用に値しないSNSの利用が

実名報道か匿名か／情報との関わり方考える

多いことも分かった。つまり、生徒は情報の受信者という立場だけでなく、情報の発信者でもあるため、情報でだれかを傷つけること

多分、匿名報道を望む声もあることを気づかせ、それぞれの報道のメリット、デメリットをグループで考える活動を行った。最後に、情報の発信者でもある生徒が、よりよい在り方、自分自身との関わり

業の内容をどれだけ主体的に考え、自分事として捉えることができたかが挙げられた。

この課題は今回に限ったことではない。21年度から新学習指導要領が実施され、主体的・対話的で深い

を匿名報道すること、匿名報道することの是非を考へ、よりよい報道と社会とは何か、自分はどうのように情報や社会に関わっていくか考えることを狙いに設定した。

本時の展開では、京都アニメーション放火殺人事件と相模原市の知的障害者施設「津久井やまゆり園」で起きた殺傷事件の新聞記事を取り上げた。被害者遺族の中にも、匿名報道を望む

について考える授業の展開を構想した。

授業での生徒のワークシートへの記述を見ると、匿名報道を望む声が多く、SNSを利用する立場から、個人を傷つけないようにしたいとの内容が多く見られた。今後、社会科学の授業で、加害者を匿名報道するか匿名報道するかを考えさせ、さらに内容を深めていきたい。

課題としては、生徒が授業



8月の全国大会に向け具体的なNIEの発表などを学んだ第2回全体会

札幌大会全体会 オンライン開催

授業、発表内容話し合う

8月本番へ教諭ら真剣

8月の第26回NIE全国大会札幌大会(日本新聞協会主催、北海道NIE推進協議会・北海道新聞社主管)に向け、同協議会は3月27日、第2回全体会をオンライン

インで開いた。大会で授業公開や実践発表する教諭ら約60人が参加。実践事例を紹介する研修のほか、授業づくりや実践発表の内容などについて分科会ごとに話し合った。実践発表関係者は初顔合わせとなり、本格的なスタートを切った。新型コロナウイルス感染予防のため北海道新聞本社(札幌市中央区)には、一部教諭のほか、全体会運営のため同協議会の役員ら少数が集まった。菊池安吉会長は、コロナ禍による臨時休校や分散登校などを振り返り「新聞が(教育に)果たすべき役割があると実感できる1年だった」とあいさつ。

研修では、全国大会で授業公開を予定し、NIEアドバイザーでもある志田淳哉教諭(札幌南高)が、対面授業とオンラインとの違いに触れながら、新聞記事を使う授業の具体的な手法などを紹介した。

分科会の交流は、担当教科やテーマごとに20ほどのグループに分かれて行った。各グループ代表からは、「子どもに毎日、新聞に触れさせていく」「情報モラルを教える」となどの報告があった。

同協議会の高辻清敏顧問は「先生の決意や抱負がみえてきた。自信を持って取り組み組んでほしい。今後の教員人生の大きな糧になる」と励ました。

コロナで苦心 実践に工夫

2年ぶり アドバイザー会議で報告

道内のNIEアドバイザーが、1年間の活動報告や意見交換する北海道NIEアドバイザー会議(北海道NIE推進協議会主催)が1月9日、北海道新聞本社

NIEプラザと各地のアドバイザーらをオンラインで結んで開かれた。写真。本年度は新型コロナウイルス感染拡大が授業にも影響したが、工夫した取り組み



の紹介や、NIE活動の広がりを目指した提言も出された。

アドバイザー会議は2年ぶり。19年度は新型コロナウイルス感染拡大で中止した。今回は初めてオンライン会議システム「Zoom」の紹介や、NIE活動の広がりを目指した提言も出された。

また、実践例を蓄積、共有する仕組みを作ることや、現在年1回のアドバイザー会議を、遠隔地からでも参加しやすいオンライン会議システムを使って開催回数を増やし、アドバイザー間の連携、情報共有を進めてはとの提言もあった。

授業例では、地元に関する記事を読ませ生徒の関心を高めさせたり、記事データベースを使った実践などが報告された。NIEの1層の広がりに向け、教諭間で情報共有するため、オンラインで勉強会を重ねたことなども紹介された。

実践念頭 論文がNIE学会奨励賞



日本NIE学会の研究奨励賞受賞を喜ぶ釧路・北中の池田泰弘教諭

アドバイザー 釧路北中・池田泰弘教諭

日本新聞協会アドバイザーで釧路市立北中学校教諭の池田泰弘さん(46)は、釧路管内釧路町が、日本NIE学会の研究奨励賞を受賞した。同賞は、新聞の教材化を研究する教員や大学研究者らでつくるNIE学会が研究論文を対象と民主主義の重要性を書いている。

に本年度新設。受賞理由に「丹念な先行研究と実践を念頭に置いた学会にふさわしい研究」を挙げる。

池田さんは社会科の授業づくりで、生徒の伸ばしたい力を「社会状況を捉える力」「社会に関わる力」「社会に力」など目標別で4類型に分類した。この目標別で使う記事の種類や授業方法を具体的に論文に書いた。

池田さんは「最初は新聞が苦手な子供たちが新聞を読めるようになり、社会と向き合うきっかけになります」と手応えを語る。

ふる里・京都府宇治市で2017年11月、開催されたNIE学会大会で、12類型による授業づくりを発表した。この時以降、論文研究と実践を熱心に続け4類型まで簡略化した。

本格的にNIEに取り組んだのは12年。道教育大釧路校などの新聞活用の学びに参加してからだ。授業者の1人として2年間研さんを積み、今は同校の学生向けに集中講義を持つ。

池田さんは「NIEを知り新聞を教材にできることを学んでもらえれば十分」と力強く語る。アドバイザーは本年度から務める。立命館大学法学部卒業。

拉致問題を伝え続ける



拉致問題解決に向け札幌市で開かれた映画とアニメの「めぐみ」上映会=令和元年7月

コロナ禍オンラインで授業

産経新聞社札幌支局長 寺田 理恵

「在日コリアンの生徒を傷つけ、日本人生徒の朝鮮人に対する憎悪を助長する恐れがある」
北朝鮮による拉致被害者の横田めぐみさん(56)の拉致当時(13)を題材にしたDVD「めぐみ」について、学校現場でこんな見方があります。2年前の教職員団体の集会で、ある先生が発したリポートに基づいていました。

部科学省が授業での活用を促してきました。アニメの方はめぐみさんの家族の苦悩や救出活動を描いたドキュメンタリーで、全国の小中高校に上映DVDが配布されています。

けれども、この先生が勤務する高校ではDVDを生徒に見せなかったそうです。リポートが発表された場では議論が低調だったの、こうした見方をする先生は多くないのかもしれない。

ただ、拉致問題をめぐって、むしろ視聴の機会を捉えて事前や事後の学習をすることで、憎悪やいじめの防止につなげてほしいと思います。

アニメや映画の「めぐみ」は在日朝鮮人を責める内容ではありません。拉致問題の解決に向けて世論を喚起するため、政府や自治体などによって各地で上映会が開催され、これまでに多くの人が鑑賞しています。

札幌市の札幌駅前通地下広場で令和元年7月にアニメと映画の「めぐみ」の上映会が開かれたときは、鑑賞した市民から「何としても日本の土を踏ませてあげたい」という感想が聞かれました。

めぐみさんの父、滋さんは愛娘との再会がかなうことなく昨年6月に87歳で亡くなりました。拉致被害者やその家族は高齢化が進み、一刻も早い救出を求めています。

しかし、この1年は新型コロナウイルスの感染拡大の影響で上映会や署名活動を行うことが難しくなっています。産経新聞がNIEの一環として実施している拉致問題の出前授業も、感染防止に配慮して東京本社と学校をオンラインで結んで行いました。

産経新聞では、すべての拉致被害者にささげる「めぐみさんへの手紙」を小中高校生や大学生相当の方から募集し、一部を紙面で紹介しています。

14年に北朝鮮が拉致を認めて謝罪し、拉致被害者5人が帰国してから18年以上がたち、拉致問題の経過を知らない若者もいるでしょう。問題を風化させないためにも、若い世代に伝えることが重要です。

政府が認定した日本人拉致被害者17人のうち、帰国したのは5人だけです。17人のほかにも拉致の可能性を排除できない行方不明者がいます。拉致問題を伝え続けることが、被害者救出への大きな後押しとなります。

リレーエッセー 多紙彩々

**NIE推進協議会
5月22日定期総会**
北海道NIE推進協議会(菊池安吉会長)の2021年度総会が5月22日、北海道新聞本社(札幌市中央区)で開かれる。新型コロナウイルス感染症予防のため、全道各地のアドバイザーや実践指定校関係者らをオンラインで結ぶ方式も検討されている。

21年度の活動計画案、予算案などが審議される。21年度の地区セミナー開催計画や実践指定校の内定状況も報告される。小中高の実践指定校から選ばれた実践報告表彰は、実践者が取り組みを発表する。

8月16、17両日、札幌で開かれる第26回NIE全国大会札幌大会(日本新聞協会主催、同推進協議会主管)の準備状況の報告もある。前年度総会では新型コロナウイルス感染拡大を受け、書面決議で行った。

編集後記

○…1年前のNIE通信(93号)を見た。1面は「札幌全国大会スローガン決まる」の見出しが目飛び込む。2面以降は推進協議会の地区セミナーなど、いろいろなNIE活動が紹介されている。写真に写る参加者に、マスク姿は一人もない。

○…今号は8月に札幌で開かれる全国大会に関する記事を中心に編集したが、「本年度セミナー2回」の見出しが象徴するように、この1年間、思うようなNIE活動ができなかったもどかしさにじむ。新型コロナウイルス感染が、社会や教育現場にどれほど影響を及ぼしたか、改めて痛感した。